

【フロンティアスクール用中間報告書様式】

都道府県名	山形県
-------	-----

．学校の概要

学校名	酒田市立鳥海中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	0	6	13
生徒数	51	59	63	0	173	

．研究の概要

1．研究主題（テーマ）

生徒一人一人がわかる学習指導のあり方 ～数学の授業改善を通して～

2．内容与方法

（1）実施学年・教科

<p>・1～3年生・数学</p> <p>理解度に差が出やすい教科であり、小規模校でもTTの授業や少人数の授業に取り組みやすい教科であるため。</p>
--

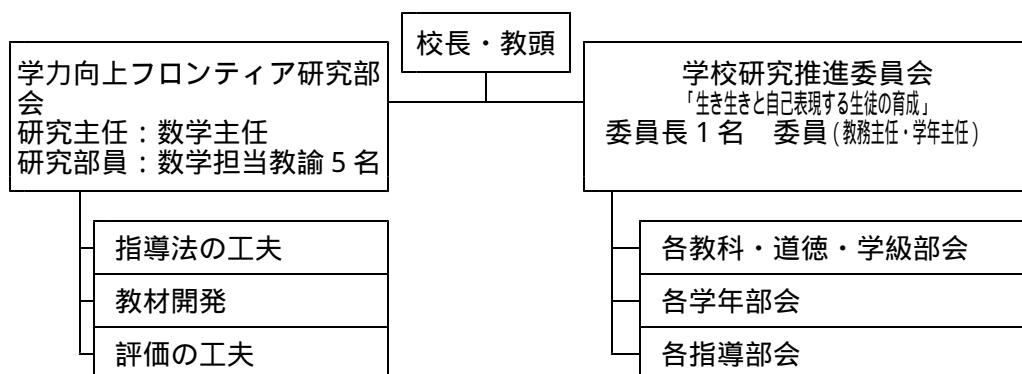
（2）年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>数学科における個に応じたチームティーチングの研究</p> <p>仮説</p> <p>TTで個に応じた効果的な指導を工夫すれば、どの生徒も基礎基本が定着し、数学を好きな生徒が増えるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>TTの基礎学習（学習形態等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中における効果的なTT指導の研究 ・ドリル練習におけるTTの機能を生かしてのブランチング指導の研究 <p>教材の開発（学ぶ意欲を高める教材開発）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた難易度の異なる問題の作成 ・生徒の興味関心を高める文章問題の作成 <p>校内授業研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/19（火）に郡市合同算数・数学研究協議会がおこなわれ、鳥海中学校を会場にTTの公開授業を発表した。 <p>先進校視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H15.1/31（金）に東京都の世田谷区立駒沢中学校でおこなわれた効果的な習熟度別学習のあり方を研究テーマとする研究授業および研究発表の視察に行った。
--------	---

<p>平成15年度</p>	<p>テーマ 数学科における少人数指導と習熟度別学習の研究 昨年度の中間報告書では、習熟度別学習だけを研究すると記述したが、単元の中で少人数学習と習熟度別学習をそれぞれ効果的な場面で行えば、さらに生徒を伸ばせると考え、今年度は少人数指導の研究もテーマに加えた。</p> <p>仮説 少人数指導と習熟度別学習で個に応じた効果的な指導を工夫すれば、どの生徒も基礎基本が定着し、数学を好きな生徒が増えるだろう。</p> <p>研究内容・方法 少人数指導と習熟度別学習 ・効果的な単元及び場面と学習形態の研究 ・少人数学習と習熟度別学習の実施 教材の開発（補充的、発展的な学習のための教材開発） ・習熟度別学習における習熟度に応じたドリル用プリントの作成 ・校内計算検定の実施と教材の開発 評価を行う場面・時期・方法の工夫 ・単元ごとの指導計画（評価計画）の作成と見直し ・自己評価カードと座席表の活用 校内授業研究会 ・11/18（火）の校内授業研究会でTT指導によるグループ学習の授業を行った。 先進校視察 ・学力向上フロンティア事業による公開授業研究会（榊引町立榊引東小学校と酒田市立第一中学校）に行った。</p>
---------------	--

<p>平成16年度</p>	<p>テーマ TT指導や少人数指導と習熟度別学習の単元指導計画における効果的な位置づけと指導法の研究</p> <p>仮説 TT指導や少人数指導と習熟度別学習を単元の指導計画の中に効果的に位置づけ指導法を工夫すれば、どの生徒も基礎基本が定着し、数学を好きな生徒が増えるだろう。</p> <p>研究内容・方法 TT指導や少人数指導と習熟度別学習の単元中における効果的位置づけと指導法の研究 ・TT指導や少人数指導と習熟度別学習の実施 ・単元ごとの指導計画の作成 教材の開発（補充・発展的な学習のための教材開発） 評価方法の工夫 校内授業研究会 先進校視察</p>
---------------	---

(3) 研究推進体制



・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・初めて少人数学習を単元を通して行ってみたが、生徒の意欲面を高め、個々の生徒にきめ細かい指導をすることができる有効な指導方法であることが実感できた。
- ・アンケートで多くの生徒が今までの一斉指導にくらべ、少人数学習やコース別学習が良かった、そして授業がわかりやすいと答えており、生徒の学習意欲を向上させることができた。
- ・単元を通して少人数授業を行ったり、あるいは単元の中でTT指導や習熟度別学習（コース別学習）など多様な学習形態をより有効な場面で行うと効果的であることが実感できた。
- ・今年度から単元テストを実施し、その他にも小テストを行うなど、テストの回数を増やすことにより、より客観性のある評価を行うことができた。

2. 今後の課題

- ・自己評価カードや座席表による評価活動など、個々の生徒を伸ばすための評価、次の指導に生かすための評価の研究を進めてきたが、ねらいを達成するまでには至っていない。より客観性が高く、指導と一体化して生徒を伸ばしていけるような評価をめざして、今後研究していく必要がある。
- ・効果的な指導方法や指導形態を研究し実践してきたが、一番の目標であったテストの点数に現れる生徒の学力の大きな伸びや数学が好きな生徒の増加については今一步大きな成果を上げるには至らなかった。今後の大きな研究課題である。

・学力等把握のための学校としての取組

- ・標準学力テストの実施（年1回）
- ・定期テスト、単元テストやCRT、学校内独自で実施のテスト
- ・生徒の意識調査（アンケート）

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・公開研究会の実施

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	1 5年度からの新規校	1 4年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	TTによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	